

大切な赤ちゃんを、守るために…

お母さん お父さん！

胆道閉鎖症の検査をおすすめします。

胆道閉鎖症への取り組みは、
日本の医療が世界をリードしています。

お産を前にしたお母さんへ

ほとんどのお母さんが、お産を前にして、さまざまな不安や、疑問などをお持ちになると思います。そのうちのひとつに生後の黄疸があります。

あかちゃんの黄疸は通常、生後4、5日頃がピークで、1週をすぎると徐々に消失します。生後、黄疸が1週間以上続いたり“うんち”が白っぽいときには、胆道閉鎖症という病気を思い浮かべてください。“うんち”的色に注意することは母子手帳にも書いてありますが、なかなか早期発見ができていません。

お産後のお母さんへ

この病気は生後60日以内に手術しなければ幼い命の危機と、多くの本に書かれていますが、もちろん、状況はそのあかちゃんによって異なり、生後90日で手術してもうまくいく場合もあります。一律には言えませんが、早ければそれだけ良い肝臓機能に戻れるわけです。

● 胆道閉鎖症とは？

肝臓で作られた胆汁が腸へ流れるための道を胆道または胆管と呼びます。

その胆道・胆管が生まれつきまたは生後まもなく、何らかの原因でつまってしまって流れなくなったり、肝臓の中で胆汁がうっ滞して血液内に逆流し、黄疸を発症し、そして便は白っぽくなる病気です。

肝臓の機能は回復しなくなり、だんだん硬くなってしまい肝硬変となり、やがて死に至ります。その原因は不明です。現在の治療法としては「葛西方式」と呼ばれる手術が一般的に行われています。日本では、約9,600人出生に1人の頻度と報告されています。

★ 早くに発見！ そして早くに治療！
が、最もたいせつ。

おしつこで
早期発見しよう！

“あかちゃんのおしつこ”
の検査で発見可能。
それが **USBA** 検査です。

USBA検査 は、当院で受けることが出来ます。

